WASON
HQ
1164
J74

Mar 1894
no. 370

明治十八年刱刊

女學雜誌

毎週土曜日發兌

第三百七十號

要目

○社説
恭奉賀第廿五春大典 よし治
何如にして今日を祝はん
皇室
○史傳
英國女王陛下の情交
大統領夫人‥‥當年の女學生之れに當る 梅馨生
○雜録
舊幕府大奥の一端
御台所御樂居の間
將軍御成の節御寢の間
○論説
女々しき婦人
女らしき婦人 鷗村
○文藝
歌の書式 鈴木弘恭

明治二十七年三月十日發兌

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

第三百七十號目録

社説

皇室

恭奉賀第廿五春大典

何如にして今日を祝はん

はつひばり（韻文）殿の女

雜録

舊幕府大奥の一端

第一　御台所御樂居の間

第二　將軍御成の節の御寢の間一郭

亞米利加の發見者はコロムブスにあらず

シヤムロの婦人と寶玉

論説

女々しき婦人と

女らしき婦人（鷗村）

文藝

歌の書式、其一（鈴木弘恭）

堅咏草、折詠草、短冊、

史傳

大統領夫人……當年の女學生

英國女王陛下の情交（上）　在米國　梅馨生

家政

年少の下婢の教育

日用薪炭につきての經験話

時報

◎銀婚式〇大婚祝典と矯風會〇石黒夫人の奉祝

◎學校教育〇子守り學校〇同絅女學校◎美談〇

奇特の少女〇感心なる婦人◎片々〇天野氏の賢

日逝く〇稀有の家庭〇少女の壽〇婦人賞金を受

く

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

皇室

第百二十一代
今上天皇　御名　睦仁
孝明天皇第二皇子
寶壽四十三歳

御降誕　嘉永五年壬子九月廿二日陽曆十一月三日
御踐祚　慶應三年丁卯正月九日
御元服　慶應四年戊辰正月十五日
即　位　慶應四年戊辰八月廿七日

皇太后宮　御名　夙子
故從一位九條尚忠第六女
寶壽六十四歳

御生誕　天保四年癸巳十二月十四日陽曆一月廿三日
入　内　嘉永元年戊申十二月十五日
准后宣下　嘉永六年癸丑五月七日
皇太后宣下　慶應四年戊辰三月十八日

皇后宮　御名　美子
故從一位一條忠香第三女
寶壽四十五歳

御生誕　嘉永三年庚戌四月十七日陽曆五月二十八日
入　内　明治元年戊辰十二月廿八日
皇后宣下　明治元年戊辰十二月廿八日

皇太子　御名　嘉仁
第三皇子

御生誕　明治十二年巳卯八月卅一日
東宮宣下　明治廿年八月卅一日
立太子　明治廿二年十一月三日

常宮昌子內親王　御生誕明治廿一年戊子九月三十日　第六皇女
周宮房子內親王　御生誕明治廿三年庚寅二月廿八日　第七皇女
富美宮允子內親王　御生誕明治廿四年辛卯八月七日　第八皇女
滿宮輝仁親王　御生誕明治廿六年十一月三十日　第四皇子

女學雜誌
第三百七十號
明治二十七年三月十日發兌

社說

恭奉賀

第廿五春大典

明治元年十二月廿八日、從三位一條美子をもて女御とし、即日冊して皇后宮と爲されけるより、今茲二十七年春三月に至り、正に二十五年に滿つるとて、當九日、慶事第廿五春の御祝ひの爲め、玆に聖婚紀念の大典をぞ擧げ行はしめ玉ふ。

謹しみて回顧し奉まつれば、慶應四年正月十五日、天皇、元服を加え玉ひ、內には、始めて太政官代を九條道孝が邸に置き、以下八省を興すの計畫を預定せしめ、外には、

各國全權公使を兵庫に會し、太政復古を報ずるの國書を付し玉ふ。爾來八閱月、天柱を塵砂の間に立てゝ四維を草莽の外に張り、建業創成の御政、日も亦た足らず、夜も御寢の暇まなき御有樣にして、或ひは天地の神祇を祭り五ヶ條の御誓を宣させ玉ひ、又、億兆安撫國威宣布の宸翰を賜ひて、天下蒼生を思食させ玉ふ。而して、洋敎の取扱ひ、金札の發行、太政官中新たに七官を置くの事、江戸を改稱して東京と爲すの事、及び國是憲法の基礎たるべき政體書を頒布せられたる事など、何れも此の日月の間だにあり。斯て、八月廿七日と云ふ日、天皇、位に紫宸殿に即かしめ玉ふ、時に、聖算十七にてましましける。

既に、天日の光、赫々たり、御威稜の德いかめしければ、奥羽の亂は、暫らくにして治まり、車駕、東京に至りて、聖恩、汎ねく及べり。此に於てか、海內全く靜定し、民心大ひに安堵せしかば、十二月二十二日、車駕、京師に還り、其二十八日を以て、則はち、大婚を執り行はしめ玉ひける。

然りと雖ども、『春來兵馬倥偬、國事多端、上下の疲弊一方ならず、深く大儀に思召さるゝ由にて』何事も、質素輕便を擇び玉ひ、此の大婚の御式の如き、極めて簡易なる儀則に準ぜられし御事、之を當年內外の形勢に鑑がみて、大御心のほど恭やしく察し奉つるに堪え、實に感泣のおもひ禁ずると能はず。

爾來二十有五年、日月晝夜を照らし、陰陽四時に運り、文武恩威併び行はれて、皇德圓滿に、王化普ねく及べり。是れ、單へに、兩陛下、外揚內助の御德滿ち溢ふるゝが故に由る。

今や、國旗、旭日と共に登り、日東神洲の聞え、全世界に著ちるし。たとひ、國會は屢ば解散せらるゝとも、立憲公議の政體は、東洋全洲の摸範となる。十九世紀の終に於て、世界の歷史に一大異彩を放たしめしは、東洋に於ける我日本國の開明なり。二十世紀の初よりして、東方問題に一大偉力を呈せんとするは、極東日出づる國の吾大和民族なるらん。大凡そ、如此き偉大なる變革の成就せられ、亦完備せしめられんとするは、眞とに是れ、兩陛下極に立ちて万衆を統治し人心を一和せしめ玉ふの由緣に因る也。

何事のおはしますかを知らずと雖ども、一念、宮闕皇城に及ぶことに、只だ忝じけなさに淚こぼるゝは、吾等臣民が衷情

なり。然るを況や、維新改革の聖旨未だ悉く徹底せず、前途幾多の御事業尙ほ容易ならざる時、官吏と人衆と兎角に協同せず、政務屢ば澁滯するとなれば、民を思ひ國を思し召す兩陛下の大御心は、抑も幾そたび歎きに痛み玉ふとやらん。早天、御衣を正して、天地神明に祈り玉ふの時、乙夜御袖をうるほして、共に語らひ玉ふの時、あゝ〱兩陛下、江海大洋の御こゝろの內も、幾分吾等が恭やしく察し奉つるとを得るの所にはあらずや。

然はあれど、皇帝陛下、日々御政務の繁縟々しき事など、到底、下民が測り知るとを得ざる所ろなりとぞ。ほのかに承はる、毎朝、御學問所に御出御あそばさるゝの時刻、四時一日として遲速なし、或時は夜深け、万民すでに夢を結ぶの頃より、初めて內儀に入りて御休息遊ばされ、明日こそは、少しく優に御休らひ遊ばされんと願ふもののみなれど、明日も亦た寸時の御猶豫なく、例刻依然として御出御遊ばすとぞ。曾て、土方宮內大臣が新邸に行幸ありし日、還御の時刻曉に近く、夜は暫らくしてほの〱とあけそめたる程なるに、翌朝九時、陛下は既に御學問所に出御ましましけるとぞ。斯して、正午下る一時に至るの頃まで、肅然座に倚らせ玉ひて、勅令案を一々御覽あらしめられ、又、參內拜謁を請ふものに一々御ゆるしあり、凡そ一時も御手すきなく、曾て此座に於て湯茶を命うせ玉ひしともあらずとは承はる。而して、勅令案のや、大切なるものは、一々侍從長に命じて、御參考材料の調査を命じ、改正增補の經過を知ろしめさんが爲めに、殊に本文の傍らに、朱、靑、等にて細字を記入せしめ玉ふなど、之を御覽あるすら煩勞大方ならざるに、尙ほ留め置きて熟思沈慮を寄せさせ玉ふも尠なからずとぞ。午飯をきこし食さんが爲めに、暫し內儀に入らせ玉ふとも、復たび出でて正座に就かせ玉ひ、大夲ね、日くるるの比にあらねば、眞とに御服を更えさせ玉ふとあらずとは承はる。嗚呼、一天万乘の君、たとひ拱手して政を親からし玉ふとあらずとするも、尙ほ垂天覆地のうれひ日夜止む時なかるべきに、天皇の御忙はしきと如此く、邦家の事あると、年に日に如此く增し加はるとせば、大御心を難ませ玉ふがほど、そも〱幾干ぞ。

皇帝陛下、外に御忙はしきと斯の如くなれば、皇后陛下、內の御助けの重大ならんと、もとより明けし。然

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

るに、　陛下の謙徳に富ませ玉ふは、百世尙ほ其の類ひを見んと擬しつ　天禀の聰慧玉躰に徹底し、八面玲瓏の御姿眞とにいやちこなるを、わざと被ひ玉ひ、御言葉少なくして御聲低く、何事も知らざる躰にもてなし玉ひて、ひたすら人言を容れんとはなし玉ふ。左れば、非凡の御學力も、人の知るとなく、天來の御詩才も、わづかに年に一つを示し玉ふ。某侍從學を好みて漢籍に深しと聞し召し、其宿直のたび〳〵、人を下して御不審の箇所々々を探ね玉ふに、其旨義眞とに難く、大家も容易に辨じがたきほどなれば、后には宿直の都度必らず庚己字典一箱を携帶せりとぞ。左れば、　陛下の御學力のほどは申すも恐れあり、女官のうち漢籍に通じ、一下千瀉、立どころに漢文を作らんほどの秀才も多きに、古への納言とたがひて、馬骨を買はんやなど罵しる聲の簾中より洩れざるは、悉とく、　陛下の謙徳に化すればなりとぞ。而して　陛下は、亦た內外婦人の拜謁を請ふをゆるし、一々之を見て、御物靜かなる御慇懃しみ深き御言葉を下し玉ひ、重臣の病ひあるものには、一々御使を送らしめ玉ひ、女學校、赤十字社、慈惠醫院、養蠶所、職業女學校、盲啞院、感化院のたぐひには、日夜、御心を注がせ玉ふ。左れば、其の御忙はしさも亦た格別にて、終日、御閑暇とてはあらざるに、風儀貞靜、禮容肅々として、十年千日の間だ、一點一畫として御行儀を略き玉ふとあらず。人の御前に出るものあれば、之を百千度すとも、毫も變はり玉はず、曾て寸毫の御愉態あるとなしとぞ。左れば、　陛下に尤とも近く伺候する某太夫は、驚歎して申さく、吾が　皇后宮陛下の如き御つゝしみ深き御女性は、たゞに日本中に無きのみならず、全世界にもあるべからずと。某侍從も亦た申すよう、吾が　皇后宮陛下の如きは、現代世界の万國に無きのみならず、我國千古の歷史に曾て無き所ろなり、其の言行一々の御跡を履まば、女道の完全なる理想は優にこゝに存すべしと。嗚呼、　陛下の御つゝしみ如此し、陛下の御用繁きは亦如此くなるが上に、皇帝陛下に對し玉ふ御介抱、御勤仕の御ねもごろなると、何如なる言辭を以てすとも述べ盡すと能はずとは申す。恐れ多けれども、　兩陛下の御間柄を拜し奉りたるものは、世界万國の宮殿に、如此く、嚴正、如此く貞崇、如此く深愛の御交はりあるもの曾てある可らずと知り、神州伉儷の德の爲に、

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

感激にたえずとぞ言ふ。皇帝陛下、玉體に恙あらせ玉ふときは、皇后陛下御衣を解かずして日夜御看護あり、終夜、御枕邊に護りて曾てまどろみ玉ふにあらずなど傳へ申すこそかしこけれ。

嗚呼、兩陛下、國事に御意を盡くし玉ひ、日夜御心を難ませ玉ふ。明治元年、御位に即かせ、其の十二月、寶緣を結ばせ玉ひてより、こゝに二十有五年、月日幾回轉して、御心のいたみ止む時なく、蒼生を思し食して、寸刻、御安息の折あるとなし。吾等臣民、一念こゝに至る每に、感激、涙に咽せび、頭を垂れて、宮城を拜す。仰ぎ願ふらくは、兩陛下、少こしく聖慮を休めて、玉躰を安んじ玉へ。臣等、亦當に恐惶々々、深く謹しみて、大御心に傚ひ奉つるの事をつとむべき也。

茲に、第廿五春の大典を擧行せしめ玉ふ。寶緣初めて結べるの日、天下治まりて倘短かく、聖政万事其緖に近かりしが、今に方りては、大政完熟、國防堅成、維新の聖旨半ば成れり。此の大典を祝するに、當に以て其善美を悉くし玉ふべき也。兩陛下、日夜、御心を休め玉ふときなし。冀ふらくは、今日一日、聖緣のうつくしく、御睦みの麗らかなるを思し召し、百姓万衆が、感泣して御親愛をことほぎ奉つるの眞情をきこしめし、優に御心を解かせて、靜かに一日の御なくさめあらんとを、謹しんで、大典をことほぎうや〳〵しく臣等が微衷を奉つるとは申す。誠恐誠惶、敬まひて白す。

何如にして今日を祝せん

何如にして、今日の盛事を祝ひまつらん。吾黨の人士、さきに檄を傳へて曰く、

來る九日、第廿五春の大典擧げさせられんとす。宮中にては、前古類ひなき御祝儀なり、殊には、兩陛下千代万代かけての御愛親をことほぎ奉らんとするもの、百姓万衆、孰れか慶賀の念切ならざるとを得んや。然りと雖ども、謹んで此祝意を表明し、滿腔の熱情を呈露せんに、其形を撰び、盛典奉行の深旨と適合せしむるとあらずんば、反つて禮を失し義に背くの患ひあらんとす。前年、

憲法發布式ありたる節、大ひに酒を被むり甚しく與に流れ、放蕩亂行して暴りに喧騷たりしのみか、白晝與衆の前に出づ可らざる醜業者をして、公々然遊興を助けしめたる如きとあり。立憲政躰の面目を損し、内外の道義に恥辱を曝せしと、千歳の遺憾なり。然るに此度ぴ盛典祝式の大躰は、右憲法發布式に則とるべきよし公訓あるに付きては、殿に甚正しき所を履みて、斷じて其過失を襲がず、再たび恥辱の狂態なからんと事要するに、現して此度御祝儀擧行せらるるの聖意を奉躰するものは、一層此邊謹愼の覺悟なかる可らずと思はる。もし夫れ賀を表せんとして、亂酒酩酊し、毒を飲み風を汚し子孫公衆に害悪を遺し乍ら、以て祝思を悉せりとするとの愚なるは、申す迄もなし、抑そも　兩陛下仁深の聖旨に反くと至大なるに覺悟せずんばある可らず、
兩陛下の此大典を擧げさせ玉ふや、特に[illegible]らんとを命うせ玉ふに、臣民徒らに喧噐亂行するは、不忠なり。
兩陛下、此大典に際して殊に長壽者に賜ふ所あらんとす。これ寶壽の万歳なるに比して、臣民の壽長からんとを喜こばせ玉ふの仁志なり。然るに、酒に耽り毒を飲んで自から生命を滅がんとするは、不忠なり。
此等不忠の失あらんとを顧りみず、自暴放蕩して、上は聖なる大御心に反き奉つり、又謹嚴貞靜なる御儀式の主旨を濆し、下は族人を難ませ、比隣を騷がせ、風俗を亂すなど、一も容赦すべからず。然るに、或ものは、此日家々酒宴を開きて祝意を表せよなど言へり。尤とも思はざるの甚しきとす。願ふらくは、一家親睦會同して、物靜かに此大典をことほぎ、高潔端莊の祝意を失わざらんとを。右謹しんで同胞君子に勸告す。
これ能く吾黨の志を得たり。酒宴を催ふして、酒の毒を身に蒙むるとの不可なるは勿論なるが、倘又、かゝる騷ぎにて迷惑するものは、細君と下女下男なるべし。醉ふて樂しとするものは、只だ主人のみなるべし。之れ決して國祭公式を奉祝するときの心得にあらず。
かゝる折には、主人も、下男も、細君も、下女も、凡そ一國民たらんもの、皆な均等充分に、祝意を表するとを得せしむべ

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

し。前日に、夫々の仕度を了り、當日は、最と物靜かに、一家上下、會同して、只懇ごろに慶賀すべし。門前に國旗ひらめき、家內に、琴の音ひゞき、折々笑ふ聲は聞ゆとも、惣躰鄭重にして、上はやんごとなき御方の御間柄を語りて、祝ひ、下は、吾々、知人、同輩などの情交を念じて喜こぶなど、之を優なる心得とせんか。

初ひばり　　　賤の女

風あらく、塵すさまじき、春の日に、心靜かに
登りゆく、御空は高し、はつひばり、
御そらはたかし、初ひばり。

風はなぎ、塵も及ばぬ、雲の上に、うたひつ登る
汝が幸を、人は知らめや、はつひばり。

登りゆく、御空は高く、淸けれど、塵の浮世に、
歸るなる、心たのもし、初ひばり。

雜録

舊幕府大奥の一端

第一　御臺所御樂居の間

◎御休息の間　大奧の西北隅の一部に當る御上段御下段とも併せて將軍の大奧へ御成なき時御臺所御樂居の處とす其前に當る二の間、三の間の內三の間は御側付女中の詰所にて二の間は女中の給仕する所なり東隣なる御臺子の間は御臺所御食事の間に奉るべき湯茶を調進する所にて御臺子の東にあるは御浴室なり物置は御浴衣を置く處御湯殿と記しある所は板の間の流しにて上り湯を使はるゝ所なり御上の湯とは湯壺のある所なり物置の前に當りて鍵の手に三間あるは御入浴の節女中侍る處なり。

◎切形の間　御休息御上段の西に隣りて切形の間あり是れは將軍御成りなき節此處にて御寢あり又た御不快の時御臥りの

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

間も此處なり。

◎御化粧の間　切形の間の前なる御化粧の間は御臺所の毎朝御化粧遊はさるべき處なれとも此處は御化粧道具を以て塡塞せられ實際御納戸にて御化粧あらせらるゝなり。

◎御納戸　切形の間の西、御化粧の間の西北に隣りて御納戸あり此處にて御衣裳を脱ぎ換へ又たお化粧を遊はさる。

◎十疊の間　御納戸の南に當る十疊の間及び御次は別に所用ある座敷にあらざりし由猶考ふべし。

◎御清の間　御納戸の西に接して御清の間あり平生は御臺所御兩親の御位牌を安置し御臺所毎朝御拜ある所なれとも御分娩、又たは御婚禮の良夜に御寢入りある時蟇目の役人蟇目の法を修する處なり又た其の南に室を接して御清の間あり此處には平生御信仰の鬼子母神などを祭る。

◎大納戸　御清の間の西に接する大納戸二間にはお長持お箪笥その他諸器具を納め御納戸拂ひの用に備ふ二階へは諸家より献上物の類など雜物を投げ込み置く大納戸の物置部屋とも云ふべき所なり。

◎御小座敷　御休息及び御清の間の北に當り兩處に御小座敷といふあり是れは御臺所が若君姫君と御對面ある所なり東御小座敷の西に一間あり御臺所の御用場なり。

第二　將軍御成の節の御寢所一郭

◎御小座敷　御座の間の南なる廊下を御次の間の前にて衝き當り南に曲りて十八間計の廊下を傳ひ又た西に向ひて行き詰まりし處此にも亦た一構へあり則ち大奧の西南隅に當る此の一構への中央なる御小座敷へ將軍お成の節御臺所若しくはお中臈と御寢なる處なり御次の間は當番の女中の控え居る所なり

◎蔦の間　御小座敷にあり將軍夜の御成に御臺所若しくは御中臈とくつろぎて御語らへある處なり蔦の間の東に當る長方の一間はその節女中の控ゆる處なり。

◎上御鈴廊下　御次に接して東に長廊下あり之れを上御鈴廊下といふ將軍お成の節中奧（大奧よりは表といふ）より此の廊下に沿りて渡らせらる御鈴番は御錠口番の詰所にて將軍還御の節此にて鈴を鳴らし其由を中奧に傳ふ（大奧へお成りの節は中奧にて鈴を鳴すなり）尤もお成りの趣きは豫て將軍附お

小姓を以て傳へあれども愈々御成の節に鈴を鳴らすと知るべし又た此の御鈴番所は昭德院の頃移して中奥よりの入口なる空間に移せりとぞ廊下の衝當りの溜の間は豫て御成の報せによりて將軍附の女中此にて出で迎ふるなり

◎御中臈控所　御小座敷北の庭を隔てゝ一間あり將軍御成の節當番のお中臈此にて御化粧など直して御小座敷にて御對面あり扨て御臺所の如く次の間にて御寢あるなり控所の二階には夜の物を納る

◎御茶屋　御小座敷前の庭を隔てゝ西南隅の塀外に御茶屋三ヶ所あり共に見晴らし好き處にて時々御遊步の節御立寄遊ばさるゝとあり。（「千代田城の大奥」による）

亞米利加の發見者はコロンブスにあらず

コロンブス若し眞に亞米利加發見者にあらずとせば、その眞の發見者は抑も誰ぞ、英國海軍士官ガンビアー氏は之を以て佛國の海軍士官ピーン、カズンその人なりとなす。その言新奇にしてまた幾分理あるが如きを以て、左にその要を摘記せ

ん。

ピーン、カズンは一千四百八十八年アマゾン河を發見したり。而してコロンブスがサン、サルヴァドルを發見したるは一千四百九十二年にして前者に後るゝと實に四星霜。

カズンは有名なる天文學者トスカンニリーの弟子にして、コロンブスも亦此天文學者の許に在て、その遠航思想を吸收したりと云ふ。一千四百八十七年その國英國との間に葛藤を起し遂に海上の劇戰をなせしとき、カズンは身を挺して敵に當り、大にその名を揚げしかば、その後遂に擧げられて遠洋探見甲鐵艦の司令長官となりたり。是に於てカズンは西班牙人ピンセン、ピンコンと共に一千四百八十八年一月出帆し二月間西に向ひて航せしが海上種々の困難に遇ひ、漂流して一大流の河口に着したり。是れ即ちアマゾン河にして氏は之をマラグノン河と名けたり。然れども、その目的とする所は通商貿易にありしを以て、氏は針を轉じて亞弗利加海岸に航せしが、その副司令官ピンコンの失擧、遂に土人と闘爭を惹起したるを以て、空しく佛國に歸りしかば、ピンコンは痛く佛人に譴責せられ、終身再び佛地を蹈むべからずと宣告せられ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

たり。

ピンコンは流浪してゼノアに至りしに、此地また身の寄すべきなく、遂にその兄弟マルチン、アルノー、マルチンの二人に依りてパーロスに來りたり。時維れ實にコロンブスか斷然佛國行の意を絕ちラ、ラビダに來りし時なりき。蓋しラビダはパーロスに近き地なり。コロムブスは此地に在て、大にその抱負と計畫とを主張なしかば、此寺領地の領主は深くその企圖に服し、その親密の關係ある西班牙女皇に書を送りて、コロムブスの企圖の行ふべきものなることを說き、またピンコンの兄弟の親友なるフエルナンデズに紹介したり。是に於て女皇は突然意を決してコロンブスを助け、コロンブスまた始めて大に自己の權利を主張したり。かくてコロンブスは女皇の助けに由りて、艦船糧米を得、ピンコンは二人の兄弟と共に來て、大にコロンブスを助け、遂に共に艦に乘じて西班牙を發したり。

一行は西班牙を發して日に西方に航せしも、陸地の存在影だになく、遂に失望落膽して共に歸航せんことを議したり。ピンコンは堅く前說を主張して、歸航の不利なるを說き、且つコロンブスに勸めて少しく針路を變じて南に向はしむ。

コロンブス已にサン、サルヴァドルを發見し、轉じて西班牙に歸るや、ピンコンは已に先づ女皇に面して事情を語り以て、カズンの功と併せてコロンブスの績を奪ひて、自己の有となさんことを勉めしも能はざりき。

左れば西班牙は自ら亞米利加發見の特權を假定し、勉めて佛國の功を蔽はんことを勉め、羅馬法王は當時佛國と相容れさるを以て、西班牙の權を承認して、佛人か之に預るを得るの理あることを拒みたり。然れども當時佛國は內亂四方に起り、外事を爭ふの餘力なく、またその士官カズンも兵艦の間を馳驅して外を顧るの餘暇なかりしを以て、亞米利加發見の令名は遂に西班牙とコロンブスとの獨有する所となり了りぬ。

然れどもカズンと共に航したるピンセント、ピンコンはコロンブスの艦中に在て力を致したるピンコンと果して同一の人なりや否やの問題は常に世人の問はんとする所なるべし。此等の人にして若し彼のコロンブス、歸航の後ピンセント、ピンコンがその兄弟二人と共に艦を裝して、直ちにマラグノン、即ちアマゾン河に航したるを見は、將に思半に過るものあら

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

んとす。彼のビンセント己に嘗て此の地に說せるにあらずして、焉んぞ能く之を知るとを得んや。

以上はガニビアー氏が議論の大意なり。若し此說にして十分論證確定せらるゝの日に至らば、コロンブスが令名も忽ち地に落つべく、コロンビアの名も遂に一種の諧謔無意味の語となるべし。

暹羅の婦人と寶玉

暹羅現今の國王をチュラロンクコルンと云ふ。その宮殿は都府中の一都府にして四圍堅固の城壁を回し、城中衞護の親兵、その數千人に下らず、特にその佛國との交渉以降はまたその數を增加したりと聞く。只九重雲深く、內部秘密の狀態は遂に歐人の透見し能くする所にあらず。

聞く王宮中その人數四千一人と、而してその男子たるは獨り國王一人のみ。而して此宮殿內は寶玉山をなし、その價の幾千万なるや知るべからずと傳ふ。第一等女皇の所有する寶玉は、その價額の幾何なるか知る能はずと雖も、在倫敦の一商店の製造に係る巨大の弗箱に滿ち、第二等女皇の資產も亦決して之に劣るとなしと。而して國王所持の寶玉類に至りてはその量實に巨大にして、王が寢殿の空處は盡く之を以て充てりと。富有此くの如く、贅澤之に伴ふと雖も、暹羅王宮の婦人は決して之を以て幸福の人となすを能はず。特に下等の婦人に至ては實に重荷を負へる一動物に過ぎず、彼等は地を耕さゞるべからず、木を折らざるべからず、水を酌まざるべからず、而してその良人は遊逸懶惰、その妻が外に耕すのとき、閑室午睡一に之を務めとす。王宮の婦人の如きは獨慾爲すとなく、究る所なく、事々物々之を鸚鵡的に繰返し、子はその齡六歲頃に至れば、その手より奪はれ、遂に終身之を見る能はざるものあるに至り、母子の關係相愛の情も淡に漸くにして消滅するに至るを常とすとぞ。

論説

女々しき婦人と女らしき婦人

鷗村

女學子先生嘗て路に、春花の如き婦人と、秋草の如き婦人とを識別せられたるが、予は書屋に蟄居して思慮を女學界に馳するの際、女學子先生と異なりたる方面に於て、二種の婦人あるを覺りぬ。

眞に婦人の女らしき、英語に之をウーマンリー、ウーマンといひ、女々しき婦人は之をウーマニッシユ、ウーマンといふ。眞に女らしき婦人は愛すべく、敬すべく、女性の淑德に進歩したるもの、否寧ろ人性に於て優れたるものといふべし。女々しき婦人は婦人中の腐敗したる女にして、嫌惡すべく、嘔吐を催すべし、女々しき婦人は、或人のいふ如く決して女らしき婦人に非ざるなり。其女らしからざるとは、若し世に男氣取の婦人ありとせば、其者の女らしからざるよりも、な

は一層女らしからざるなり。彼等を見よ、何んぞ夫れ憫然ならずや。白樂天は此徒の爲に歌ひて『人生れて婦人の身となると勿れ、一生の苦樂他人に頼る』とはいへり。見よ彼等は蒼々恢々たる天の己に下臨せるとを知らで、男子が狹隘なる情意を以て天となして常に跼る。一生涯をたゞ男子の心の波風に泛々たらしめ、男のいふ處は何事も御無理御尤と盲從し、己が内なる尊き靈魂をも擧げて之を男子の左右するに任じ。男子を反射するとをのみ勉め、媚を求め、義理を知らず。推理判斷するとなく、空想浮華に耽り、多辯にして饒舌あり。而して勇氣といへば一點もなく、金屋に紅粉を友とし、頭髮の結ひ樣、衣裳の着樣に八千心を碎き、畢生の願は男子の心變りせんとに存し。天職と心得る事は、男に御酌、旦那の衣裳の番人、御飯をたくと、赤坊を生むと、乃至床の間の飾付、芝居への御伴、舞踏會の對手、茶席の相客、其上想ふ俳優の御姫樣風、優男風になり。談ずるとは役者の贔屓話、隣りの細君の惡口、扨ては何んでも弱いが男に愛せられ、媚びらるゝ妙策と考へ、如此を以て女たるの本分と心得たり。極言せば彼等は全くゴム細工の人形の如く、グニャ〳〵然として、圓い處にも一角なく、弱さうなる皮肉の裡には、折るべからざる骨梁あらず、ショウペンハワアの痛罵したるも、兼好法師の嘆きたるも皆此類の婦人なり。

吁哀むべきは此種の婦人なるかな。彼等は自己の人間たるとを忘れて、男子に寄生する動物となる。換言せば自己を以て男の中なる女となして、人間の中の女とせざるなり。然るに嗟嘆すべきかな、世には到る處として此種の女子を見ざるとなく、人は誤りて斯かる者を以て女らしき婦人となし、本色を備へたる女子といひ、之に需要を置く女々しき男子、野暮と、頑張るがエライものと思へる男子只多し。此類の男子はかの女々しき婦人に好かれたがり、之に媚を呈す。世人往々女といへば即ち弱しといふ聯想を起し、婦人は孱弱怯懦ならざるべからずと斷ず。深窓に幽閉せられて、日光を見ざるが爲に面色蒼白く、自由に運動せざるが故に身體健康ならず。歩行侍女の肩によりて、蓮歩を運び、蟬の衣も重きに堪へざるが如く、遠雷の響に神を失ひ、家鼠の跳梁に膽を銷す如きものを婦人中の婦人と有難がり、随つて無智無學の阿呆娘をして、新駒屋の御姫樣を典型となさしむ。男らしからざる男

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

子の稱して梟娜たる美人となすものは此類なり。德川時代の小說を繙いて見よ、篇中の美人たる女主人公は、多くは此徒の伍ならずや。彼等は眞智識なき男子を悅ばしむるに足らんも、遊冶郎、たわれ男の慰となるべきも、社會の是が爲に害を蒙ふる事や頗る大なり。

眞に女らしき婦人に至りては然らず。彼等は己を以て單に男子の伴侶たるものなりとせず。彼等には獨立心あり、理性あり、道義の念に滿ちたり。故に男子に默從して、理を曲げ、義を折らざるなり。夫れ男女の配合は、音樂の二音の如し。男子の音調を誤る時に、之に伴ひて己の調を誤らしむるは女女しき婦人の業なり。之に隨ふとなくして男子の破調を矯正せんとするは眞に女らしき婦人なり。されど彼等はよく男性に信任を置き、純潔なる愛情を運び、男子仁義に違ふとあらんとする時、困難疾苦に陷る時は、いよ〳〵其愛情の量を大にして之を拯ひ、之を祐く。彼等は溫和從順の至情の中に蘊みたる人間の本性てふ至美、至大なる天稟を保ち、之を發達せしめ、之を修養す。其溫雅柔和なる容貌の陰には凜然として動すべからざる精神を有して素養ありと雖も、居常深く之を藏して人に衒はず。唯事に當るや、之を發して、毅然として立ちて、千引の磐石の撼すべからざるに似たり。女らしき婦人の勇氣は、肉躰の力に非ずして、精神の力なり。攻擊的に非ずして、防禦的なり。現動力に非ずして、潜勢力なり。故に事に衝り、物に激せずんば外に顯れず。如此き婦人の身を艱難疾苦に處するを見るに、平常修養蘊蓄したる潜勢力は爰に忽ち迸發して、恐るべき敵讎に面して、己を堅持するのみならず、また男子を奬勵刺戟して、再び鋒頭を磨して、社會の劇烈なる戰塲に出陣せしむ。彼等は學問を好み、仁を愛し、義を愛し、理を愛し、高尚偉大なる品性に向ひて切なる同情の念を馳せ、敬虔の念深く、害惡を認識するに或は徐々たらんも、善を捕ふるに其足を速くす。而して斯かる婦人は到底女々しき男子、野暴なる男子の友たると能はずして、眞に男らしき男子の好逑なり。

爰に一人の婦人あり。彼女は男子と正義を爭ひ、道理を爭へり。女々しき男、强さうに見せるが男と心得たる男子等は、之を冷笑嘲罵して、生意氣女といひ、男らしき婦人といふ。蓋し盲從をなさず、御無理御尤といはざるが故なり。此男ら

しといふは眞に男らしきの意に非ずして、かの野暴なる男流の男らしといふなり。如此きもの果して世に存せんには、之を芟り鋤かざる可からず。然れども予は疑ふ果して斯かる女子ありやと。予は未だ嘗て幸にもかゝるものあるを見ざるなり。假令ありとするも、これ蓋し救ひ易きの次。其害はたゞ皮相にのみ存せり。救ひ難きはかの女々しき婦人なるものなり。其害は内部に固着せり。之と之が好偶たる男子とは實に社會の害物なり。眞に男らしき男子と、眞に女らしき婦人とは、寔に天下の最大美觀なり。眞正に女らしき婦人の裏には深く藏せる丈夫の肝膽あり。眞正に男らしき男子の情性の奥深き處には淑女の微婉なる情を罩みて、共に容易に露すとなく、用ゐべき地に於て、之を用ゐて活動なしむ。雄女と、此男子とは、寔に人性に於て發達をなしたるものなり。世の女子教育に命を執るものは宜しく、丈夫の精神を育し、勇氣ありて、眞に女らしき婦人を養成せんことを期せざるべからず。然るに見よ、今日堂々女子を教育すと稱するものゝ輩は、あはれ生意氣なる文字に恐怖して、孱弱なる婦人を益々弱からしめて、女々しき婦人に造らんとす。可憐むべきは婦人の躬なるか。男子は彼女を軟弱なりと稱して、其聲哀憫を加ふるに似たれども、其實之を嘲笑し、且其弱きを機會として、更に之を柔弱ならしめて、自家の掌中に左右し得べき人形となす。而して此人形に要求する處は何ぞ、曰く良妻、曰く賢母と。吁女子の呵責せらるゝと又如斯に至るか。彼女は蒔かざる地より收入れんことを强らるゝ者なり。とは智識なき齊東野人の所爲ならば、なほ恕すべきに、却て是れ多くは社會の先達たる所謂學者、智慧ある者のなす處なり。然るに彼等は天の高さ幾許を知ると稱して、一歩の距離幾尺なるやを知らざるものなり。彼等は時に弱者强肉の理を說きて、吾人は男なるが故に强し、彼等は女なるが故に弱し、故に女子は男子に屈從するは天然の理なり。男を强くせんには、女をいよ〳〵弱くせよ。弱い者の窘迫せらるゝは天理なりといはんとす。今日は未だ不幸にして、女々しき婦人多きが故に、斯かる不義不道の[illegible]も猶其地に安んぜり。義俠の念あるものは須からく、婦人をして、眞に獨立心あり、勇氣ある女らしき婦人となして、正義大道に旗を飜して、彼等無道の城塞を破るべきなり。婦人は過去幾千百年の苛酷なる待遇の下に

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

柔懦軟弱ならしめられたり。彼等は實に弱し、弱きが故に之を強からしめざるべからず。婦人は概ね感情鋭く、刺戟され易し、されば爰に勇氣なるものありて、之を守護するに非ずんば、禍害の深淵に沈落して再拯ふべからざるに至らん。且や未來の社會を形成するものは女子に非ずや。予は思ふ、男子は未來に形を與へ、女子は未來に精神を與ふと。見よかの女々しき婦人の腹に宿りたる子女は、懦弱盲昧好色の徒に非ずや。嗚呼夫れ社會を千歳の後に鞏固安全ならしむるものは眞に女らしき婦人なるかな。眞に國家を愛するの男子よ、身を犧牲として、眞に女らしき婦人を養成せよ。女流諸君よ其天命を畏みて、女々しき婦人となると勿れ。予竊に思ふ、世に女らしき婦人増加するに隨つて、今日我國を危殆ならしめんとする無主義、無信仰の社會をして、耻醜して顏色を失ひ、愈々其跡を絶つに至らんかと、男子の清きは、男子のみの清きなり。女子の清きは全社會の清きなり。女らしき婦人を養成するは、國民をして眞正の文明開化に赴かしむる最良最易の方法に非ずや。

〰〰〰〰〰〰

文藝

歌の書式

鈴木弘恭

(一)堅詠草(正式)

料紙は杉原を本儀とすれど、美濃紙半紙などを代用するも可ならん。一枚を二つに折りそれをまた五つに折りてその折目の中に書くなり(上句と下句とを一行つゝに)

(甲)一首

新年　　知紀上

あら玉の年たつ今日は心さへ身
さへきのふのものさしもなし

(乙)二首

立春　　春海上

つくはねの高ねのみ雪かすみつゝすみたかはらに春た
ちにけり
こほりゐしかけひのつらゝうちさけてしつくの田ゐに
春たちにけり

名の下に(上)の字を加ふるは尊敬の意を表はすなれば初心の人は必ず書き添ふるべきなり。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

（二）折詠草（略式）料紙前に同じ三ツ折四ツ折の二式あれども通常四ツ折を用ゐる

（甲）一題

若菜　千蔭上

つくはねのゆきけにぬるゝをとめ子かすそはの用ゐにわかなつまばや

あしたつのゆきふみわけしあさとめて千代のわかなをけふやつまゝし

（乙）二題以上

霞　宣長上

はるの日にゐなのをゆけはありまやまありさも見えすたつかすみかな

こき出てゝ明石のとより見わたせはやまさしまさしまれもかすむはるかな

竹

ひまもなきみさりの竹の葉かくれになくれもしけき

十二字　十二字　七字

殘りはうらへおくる

（三）短册 總長を三分して上の三分一に當る所を最初の文字の眞中とすたゝし假字は三分一の上に出るも可なり。

（甲）男の分

春雪

春はまたあさの〻雪のむらきえにあさるきゝすのあとも見えけり　千蔭

○印の處にて墨をつくべし。名は楷正に記すべし。草書に書くは失禮なり

紫色の雲と青色の雲との摸様あるものは青色は上にて紫色は下なり。

（乙）女の分

表

分け入れはくろしさきけさわりなくてけふそふみゝる戀のやまみち

裏

たみ子

題は三字迄は一行に書き四字以上は二行にかくなり。また假字題詞書等はちらし書なり。題の上は指一つほとあけて書くべし。

新年雪

梅花先春

松不改色

春風至氷解

名所の花を

老の後三十首歌よみたりし時に述懐のこゝろを

（以下次號）

史傳

大統領夫人……一個の女學生

在米國　梅　馨　生

此は米國女學校中にも屈指の、ウェルス大學に先つ當分は、「新入」との肩書は脫し兼る女學生、今や鬱散の爲めにとて、閑靜なるオーロラの村中を、學校の馬車にて乘廻り始めてカユガ湖邊の風景など眺めつゝ、歸來りし幾人が、前に抱ける望をば勵まさんとすれば、亦た後に見し我家の事懷かしく、心も心ならざれど、時刻を過らじとて、夕食の爲めに打連れて食堂に入りて、跡より續て入來る一ト群の中、其の先達とも覺しき女學生の、年の頃十七八、丈は高き方にて、身のこなし、着物のきぷり、其の自然高尙の素振は、他の朋輩よりも年長けて見ゆる一人が、教師等もフランセス〳〵とて最と丁寧に迎へられて、靜に其席に就きぬ、傍へなる新入の女學生達は、最前より手にとりしナイフ、フォークさへ下に置きて、此の美しき一人に見取れて、始終の樣子を伺ひつゝありしが、間もなく此女學生の苗字は、フォルソムにてありし事を知りぬ。されど其の未來のミセス、クリーブランドたる事は、夢にも心附かざりしと勿論なり。

女學校內の摸樣は、何れも同し事にて其の新に入校後の兩三日は、互に其名を呼合ふとも少く、行儀正しく訪ひつ訪はれつ、其所藏の寫眞帖を出して、書中の知己、親戚を見せなどして、僅に懇意の糸口を開くとなるが、一週又は二週間の後は、全く一變して、最早何の遠慮もなく、一人が「今宵は校中の大巡回をなさん」と囁けば、何れも二つ返事に其行列は見る間に整ひ、手に〳〵蠟燭をともし持ちて、誰れ彼れの區別なく部屋より部屋に押入りて、其の主人公を誘ひ出しては列に加へ、其住家を空となしては、次き〳〵と進み行くなり。斯くて會ま月影淸き湖上を見渡せる前樓の一室は、見事に裝額したる大の油繪の半身像の掛れるを見付けて、一人が「之れはフランセスの父上ならん」と云へば、他は之を打消して「否よ彼女の保證人にて、バッファローの知事、そして大層悪しき人」と云へるは、新聞紙讀みて、政治爭ひの惡

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

口など、覺へ居たるならんか。彼女フランセスは、已に此時より其の未來の良人を愛してありしなり。左れば之れは何れの女學生も其身の保證又は後見となりて、親切に世話し呉れ時には、花又は菓子など送り呉るゝ人を好むと一般なりしなり。故に朋輩達のなまめかしき噂などするものあるも、一向に頓着せず、又他に幾多の年若き男子達が、音づれ來るも何の嫌なかりしなり。

斯の如くにして多幸なる、學校の日月は急ぎぬ。只だ其の課業の邪魔なるものとては、女學生にして始めて享得べき樂み事の時々に行はるゝのみ。譬へば躰操室にて結婚式の遊などありて、二臺のピヤノの上には婚禮の贈物など積み飾り、何れも異樣の衣服纏へる中に、一と際目立ちて、フランセス、フオルソムの白衣に黒の冠を戴ける大僧正となりて、其經文を讀上る時などは、彼女の灰色の眼は、樂みちて黒く輝きぬ。シェキスピーヤの遊などは、殊に流行にて、度々「夏の夜の夢」、又は其他の悲劇などの、女學生によりて演ぜらるゝとにて、其度毎に彼女は重立たる役目を務めぬ。是れ彼女の實に美しく人を感動するに足るの音聲を有せるが上に、最も酬酢に妙を得たればなり。又彼女は屢モルガン樓上なる書齋の中に籠ふり。彼女の好で天文の神ウラニアの像に扮して、撮影せしめたるは即ち此處なり。彼女は其朋輩等を助けて、鬼神傳講究會の夜などには、其黒き髪の毛を紐にて結上げ身に總々と紗布など纒ふて、立ところに希臘女神の化身となりぬ。此他ウェルス大學女學生の中には、夏は競漕、冬は乘橇等の倶樂部ありて、彼女は常に之れが斡旋者にてありき。彼女は又た鳳鳴會の牛耳を取り、其の自由と保護貿易の討論には、彼女は殊に得意の議論を發して、人の舌を捲しめたり。而して同會定期の晩餐などある時は、彼女は其主人となりて力を盡し、平生話少く、後れ勝の女生など引出して勵ましぬ。

彼女と大統領クリーブランド氏との間に於ける、小説的愛情の歷史は、余今之を記すの遑あらず。

抑、此のフオルソム孃が學校より許を得て、始めて華盛頓府官邸の大宴會の席に列りしは、實に千八百八十四年の春、其の大切なる保證人が愈々撰れて、大統領となれる時にして、彼は集れる賓客の中、誰れよりも先づ彼女の喜の面を見んと願ひ、彼女も亦た此の己を知れる大恩人の爲めに、形つく

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

れるならん。此時彼女の若けたる白無垢の禮服は、其年の七月學校卒業式の時にも用ひられたり。彼女の保證人は、態々ホワイトハウスの庭園に開ける、無類の花を手折りて送り越しけれど、彼女は之を以て其の曾て自ら己が「年級の花」として、品定めせる菫菜の、今や壇上に氣附けたるものと敢て甲乙せざりき。彼女の愛は、公平無私なりしなり。

目出度き時節は來り、洞房華燭の夕も過ぎて、彼女は茲に始めてミセス、クリーブランドとなりて、其同窓會に出席の爲め、一日ウエルス大學に來りぬ。彼女は別に侍婢をも伴はざりしが上に、其携帶せる衣類等も、尋常一樣のものにてありたり。古き朋輩等は皆な彼女に向て、其の慣れしフランセスの名を呼附けにせり。而して之に應ずる、彼女の無邪氣にして、何時も輕快なる擧動、益々衆の心を喜ばしぬ。センチュリー雜誌の記者ギルダー氏は、此時の饗應に招かれて、席上に演說せり。其了るや、彼は小さき狀包を出だし授け、某女史に向ひて、之をクリーブランド夫人に呈したしとて手渡しぬ。其中には菫菜の花に添るに、余の今此には反譯し難き詩を以てせり。其詩は、

This is the flower of thought;

Take it, thou Empress of land

Of true hearts, from a loyal subjects' hand;

等の句を以て始より、頻に彼女の德を頌しけり。而して其席を退かんとするや、彼れは女皇に其背をそむくるは、恐れ多しとて一步づゝ後ずさりして去りぬ。

蓋しミセス、クリーブランドが、ウエルス大學の評議員の一人に撰れたるは此時にして、以來熱心に同校の爲めに力を盡して、有名無實の誹なからしめんを期したり。又彼女在學の日、同校に出火ありて、中央の講堂燒落ちたりしが、其後新築して一層見事の建物とはなりぬ。左れど舊時の餘韻遺風は依然として存せり。エドマンド、ゴッス正に演說旅行に出立せんとするの前、偶ま倫敦の街上にマシュー、アーノルドに邂逅す。アーノルド語て曰く、「御身米國に遊んで、若しウエルス大學の招聘を受けば、必ず行て見よ、同校は實に理想的の學問所なり」と。今夫世人の爲に擧て、欽慕せらるゝクリーブランド夫人の如き者同校女學生の一人より出來るを見ば、亦以て其言の虛ならざるを證するに足らん。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

梅馨生曰く、卒業、結婚、學校を出て、、白屋に入る、女學生一躍して大統領夫人となり、世界各國の女皇と其地位を同ふす。然れども其地位の尊榮なるが爲めに、彼女の名譽は來らず、一朝其良人が位を退くの時は、彼女は一個善良なる平民の妻君として、其家庭を整るなり。才色よりも、地位よりも、彼女の眞價は、彼女を一貫せる天眞の女性に在り。女學の目的は六かしからず、善良なる婦人を作出さんが爲めのみ否か。

英國女王陛下の情交（上）

銀婚式を祝ふ時節にすら達せず、早く世を去つて偕老の人を後にのこせしプリンス、アルバートは、英國女王陛下の御胸の内依然として尚ほ生存らへ玉ふなるべし。玆に、當初の御花々しき御交はりより、とこしえに床しき御間柄の逸事を記載し、麗らかなる春の日の紀念となさんか。

陛下の花束をうく

契約の申出は男子よりすべきものと定まれど、一天万乘の君に對しては、大丈夫も手を差出すべからず。「クイン」、エリサベス以來、女王陛下の聖なる御許を相待つの外なかるべし。抑も女王ビクトリアと「プリンス」、アルバートとは、御從弟の血緣に居ませば、之に御神の定め玉ふ御結びのあれかしとは、初めより多くの人々が希望せし所なれど、ウイリヤム第四世御存生の間だは、障はるとありて、此は望みなきと見えたりけり。然るに、其后寶緣追々に熟し、天の色徐むろに春景色たつ比ほひ、宮城内に舞踏會あり。女王陛下、此時思ひを凝めたる花一束を、アルバート公に寄せ玉へり。凡そ婦人より花を受けたる時の禮として、直ちに之を胸頭に挿すべきに、公はプロシア仕立の御服を召して「サヤクト」にボタンの穴なく花を容るべき場所あらざりしに、そのかみ、サー、ヲーター、ラウレーが、女王エリサベスの足下に上衣を投げたる古事にも劣らず、即坐、ナイフを取出して、心臟鼓動する邊りに尤とも近きあたりへ、截然、穴を穿ち、恭々しく之を挿せしとぞ、花の色、誰が紅潮にうつりけん。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

陛下御申出のけはひ

左らば、何如にして、女王陛下は、御心の秘事を打あけて申し出で玉ひつらんとは、啻に好奇心の故のみならず、忠實なる英國臣民が、皆な熱心に聞かんと欲せし所ろなり。一説の傳ふる所ろによれば、此時、陛下は、先づ問ひ玉へり、公は、英國を御好遊ばさるゝかと。公は、答へて、非常に好み申すと答へ玉へり。然るに、次の日も亦同樣の御問答あり。第三日に至り、三たび同じき問を發して、三たび同じき答へを聞き玉ひしとき、万乘至尊の御方も、人の情けは異なる所ろなきとて、御眼を下に垂れ、御頰のあたりにサト紅なゐせしめて、「左らば公は英國に棲まひ玉ふとを好ませられずや」と御問ひあり。万事則はち了せりとは申す也。

皇婿の歳入

プリンス、アルバート、彌よ皇婿と定まりし時、公に呈すべき歳入の議事あり。ルッセル卿は五万磅の元案を提出し、ヒウム氏は二万一千磅に修正せしが、遂に、一年三万磅とは定まりし也。三万磅とは、十五万弗にして、大凡そ現今の三十万圓にあたる。

從順

大婚の日近づきし時、御式に主宰たるべきカンターベリー大僧正、陛下に伺候して申すよう、常人の婚姻にて、男女双方契約の言語を交ゆるに當りては、婦人の方より、「從順」ならんと申す一語あり。然し乍ら、陛下は万乘の王にして御世を治しめす至極の御身なれば、他の男子に對して「從順」ならんとの御約束は何如あらんと申す。然るに、陛下答へ玉ふやう、婚儀の契りに上下あるべからず、朕は、一女王とせず、一婦人として婚すべし、「從順」たらんとを約するは、固より好む所ろなりと。

御式服

大婚の日、陛下は、頭にヲランヂの花環をかざり、ホニトン、レースの被衣をかふぶり、金剛石の首環、耳かざりを着け玉へり。右、ホニトン製のレースは、八ヶ月間二百人の職工が

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

從事して作りしものゝよし。價ひ一千磅、即はち一万圓に上れり。當時、ホニトンレースは稍や不向なりしに、之よりして忽然聲價を復したり。必竟これも亦た陛下の御用意とは知られたり。陛下は、一品の用ひ、一時の遊びにも、斷えず世を益するの御心掛あるとなり。

神前の契約

大僧正の前に、陛下とアルバート公と立てり。皇族、大臣、大將、公使、以下面々星の如く羅列せり。大僧正將に宣告せんとするに先だち、陛下は暫らく頭を垂れ御手を組みて默禱し玉ふ。堂内一層靜肅なり。やゝありて、大僧正、形の如く問ふ、呼ぶ所ろの人の名は、單に、ビクトリア、アルバートなり。アルバートに問ふ所ろの條々に對しては、公は儼然として答へ玉へり、余は然かすべしと。次に、陛下に對して、問へる言葉は、

ビクトリア、御身は、アルバートを夫と定め、神の聖なる御許に從がひて之と共に棲はんと欲する乎。又、御身は、彼に從がひ、彼に仕へ、彼を愛し、彼を賞め、病あるときも、健かなる時も彼を助け、すべて他人を思はず、一生たゞ彼に連添ふ乎。

此問に對し、陛下は、軟らかなる音樂の音色の如き、然し乍ら堂内の隅々にまで聞えたる、朗らかなる御聲にて、

然かいたすべし

と御答へあり。之と共に、靜かに面を上に、アルバート公を見あげ玉ひぬ。

此時、大僧正は、誰か此婦人を紹介して此男子に婚配せしむる乎と問ふに、サツセツクス侯進み出で、陛下の御手を執りて、臣仕ふまつらん、と云ふ。大僧正、則はち、陛下の御手を執りて、アルバート公の手の中に措き、玆に、陛下、皇婿兩々握手せられて、聖なる寶緣志かと結ばれける。則はち、感謝の祈りあり。公より指環を大僧正に出し、大僧正一と度び受けて直ちに又返せしを、公は則はち陛下の御指に穿め玉ふ。

此時、アックスブリッヂ侯、相圖を爲し、祝砲一發轟ろき渡ると共に、京城、京外、地方、田舍、皆一齊に、祝ひの鐘をつき鳴らし、天上天下、暫しは鳴りも止まざりき。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

○年少の下婢の教育

けい子

數多き下婢の中には、一通りの讀み書き、裁ち縫ひなども心得居りて、唯他人の飯の味知らせずば嫁入りて後、良人や舅姑の氣褄とりはづしてはなるまじとの、心遣ひより、愛娘を他家へ出して、下婢となすものもあるべし、されど今の世には、かゝる下婢は先づ少くなし、大抵は其家貧しく家族多く、父母の手許にて、養ひかぬる者の女多し、此社會の親どもは云ふ、何んの〳〵小兒多しとて、憂ふることかは、十二三歳になれば、最早親の手をからず、他人の飯で育つものですと、ずつとすまして、全無頓着なり、當時の下婢はかゝる類の少女多し、又下婢の中には早く父母を失ひ、孤女となりし者少くなからず、かゝる者は殊に憐れみ、其雇ひ玉ふ主人は、之を使用する間には其教育の任をも擔ひ、此憐れなる小女等の、後來の幸福を計らざるべからず、委しき統計によらざれば、

此等小婢の數は、知るに由なしと雖ども、其數素より少くなからざるべし、故に日毎の雇主、夜な〳〵暇あるときは、此等の小婢に讀み書き、裁ち縫ひの手業を教へ、普通の道理を、理解する能力を、與へ玉はゞ、當人の一生を益するは勿論、日々の用事を辨ずるにつき、雇主の便利も少くなからず、彼の小女ども、自ら品位備り、はしたなき立話、井戸端に勇辯を揮ふ等のことも、制せずして止むに至らむ、猶廣く此美擧の行はれなば、千万の貧民學校と、其効を等しうし、女子教育擴張の一助となるは勿論、我下層民種の面目を、改むるに足るなり、喃文事を知り、文字を味ひ、文字に遊ぶ姉妹方よ、卿等が日々因て以て、其身を益し玉ふ、聖賢の遺訓も、花となりて香ひ、月となりて輝き、雪となりて風情を添へる、美文麗章も、卿等が忠實なる耳目となりて、都鄙遠近海の内外を問はず、大小漏らさず、何くれとつぶさに報じ來る、新聞雑誌も、卿等が手足となりて、瞬間に千万里の外に走せ、咄嗟の間に飛び廻る郵便電信も、若し彼の小婢等が、卿等の惠に據らずして、全く不文不學に終りなば、其身の用を爲さゝるなり、彼の憐れなる小婢等は、此十九世紀の開明の御代

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

に生るゝも、無文字時代の暗世の生活法をとらざるを得ざるなり、喃我敬愛なる諸姉よ、卿等が頤使のもとに立ち働く、彼の無分別、無邪氣、無欲なる小婢等を勵して、彼れが前途に横はる、限りなき幾多の賜物を示し、彼等をして蹶起せしめ玉へや。

○日用薪炭につきての經驗話　けい子

人々の知り玉ふ如く、我邦にて多く用ゐる燃材は、木炭と薪なり、木炭は上等の燃材にして、之を用ゐるに當り、悪臭及び煤烟を生ずることなく、燃て生ずる所の熱も、甚だ強し、木炭一斤を、充分空氣の流通する所にて、燃して生ずる熱は、攝氏零度の冷水七十三斤を、沸湯と爲すに足るなり、我等が朝夕用ゐる所の木炭に種々あり、堅炭、佐倉炭（池田炭とも云ふ）土竈、瓦炭等之なり、之等は皆少しく價貴くも、良質のものを求め用ゐる方、利益多きは、人々の知り玉ふ所の如し。

薪は能く乾きたる木片にて、良質の物一斤を燒く時生ずる熱は、攝氏零度の冷水、三十五斤を沸湯と、爲すに足るなり、薪も亦炭の如く、價貴くも良質の物を用ゐる方、利益多きは勿論なりと雖ども、亦例外の塲合あるなり、裏の山よりひろひ集めたる柴、折りくべて大きやかなる土竈たきなれたる、田舍での下婢に、高價なる堅木の薪、あてがふは却て、不經濟なり、其故は薪一斤を燃すには、殆ど六倍の空氣を要するものなるに、空氣流通の量をも考へず、さゝやかなる竈の内に、ぎつしり薪をしこみ、熱を起すの量とはなさず、徒に煤烟となして、厨の屋根裏をくすべるの量とし、去るはいと惜き心地せらる、下婢の伎倆、先づ此邊に出るやの、悪念あるとき、我はいつも、圓に二十五束の、堅木の薪をやめて、圓に五十束の軟質なる雜木を與へ、試みしことあり、大抵不熟練の下婢、小勢の内にて、少しの煮物を爲すときは、常則に反して堅木を用ゐるよりは、雜木を用ゐる方、利益あるやに思はるなり。

時報

◎銀婚式

●大婚祝典と婚風會　大日本婦人婚風會員は今回御擧行の大婚二十五年祝典に奉祝の意を表するは嘉す可きことなりと雖藝娼妓抔賤婦をして祝典を奇貨として猥りがましき振舞を爲し大典を瀆し奉る等のことありては臣民の本意に非ざる可しとの趣意にて矢島楫子の名を以て昨日東京府知事を始め各區役所に左の如き意見書を贈りたり

謹啓今度　兩陛下大婚二十五年御祝典被仰出候爲吾々に於ても驩天喜地千萬難有き次第唯有らん限りの心を盡し誠を盡し奉祝するの他無之候抑々今回の御大典は唯　兩陛下の御淸福無量なきをことふき遊され候のみならず併て人倫の大道を吾々臣民に示し被遊候　大御心と恐察し奉り愈以て難有く奉存候就ては吾々も其覺悟にて奉祝し參らせればならぬ儀と奉存候誠に神聖なる大典を奉祝するの道は亦淸潔なる方法によらさる可らず信儀は今更申すまでもなき事に御座候若し萬々一にも飮酒に托し猥りがましき振舞をなし或は人倫の道に悖れる賤女子抔を引出して祝意を表せしめんとするが如きことあらは大典をけがす所以にして恐ながら　兩陛下の大御心に反き奉るのみならず併て日本臣民の品格を墮落せしめ且は墮落したる手本を世界に吹聽する理由にも相成り寔に不相濟儀と奉存候間何卒貴下に於ても充分御注意御取締を奐々も懇禱致候我々平生社會婚風の目的を以て相集り候もの今日に於て默止する能はず謹んで以上の鄙見開陳仕り候何卒吾々の誠心御洞察の上御嘉納可被成下候はゝ獨り吾々の本懐のみならず亦た社會風敎の進歩とも可相成而して前古無比の大典を奉祝する本意にも相叶ひ可申奉存候頓首

●同婦人婚風會の献上品　同會員は今回の大婚二十五年祝典に地銀モール梅に鶯の摸樣縫り際に綱鎖中に芳香の袋を入れ左の和歌を縫ひたる羽二重地手巾數葉を献奉する由

萬世の春のかさしと咲く花になくうくひすの聲そのさけき
鶯のよろつ世うたふこえすなり千代田の宮の花のこすゑに

●石黑夫人の奉祝　陸軍々醫總監石黑忠悳氏の夫人久賀子は本月九日大婚二十五年御祝典に付宮中に於て開かせらるゝ御宴へ土方宮内大臣を以て御招きを受けしが久賀子は生憎病後なるより病餘の身万一失禮等ありて御盛儀を瀆し奉り候ては當日不參の御屆を爲したりと尤も斯る御禮遇を蒙るは恩榮身に餘る儀なればと日夜感涙に咽びせめては　皇后陛下の御心を注がせ玉ふ敎育救濟の上に衷情を表せばやとて金二十圓を養育院資金の中に寄附し又西暦千八百七十九年獨逸皇帝皇后兩陛下金婚式の事を讀みて世人と共に我　兩陛下の大婚五十年御祝典を待上げ奉らんとの心を籠め適宜の學校へ分與ありたしとて獨逸大帝賢傅育部寄附の儀を今度三浦府知事へ願出でたりと

◎學校、敎育

●子守り學校　子守學校と云へど近頃世間に流行する子守女を敎育する學校ではなく各種の工女に稼に出る子持女の子(三歲位より學齡まで)を預り一の幼稚園として之れを保育せんとする一種の學校を大坂に設けんとする者あり元來貧民の婁にして紡績工女等へ稼ぎに出れば一日五六錢は樂に取れる者を足手纏ひの子供あるが爲めぶら〳〵と其日を送る者多し然るに朝の出掛けに辨當或は食料(二錢位)を携へて此學校に子供を賴む時は學校は之を預りて日暮の歸り掛けまで敎育的遊歩を爲さしむるなり又飴屋などが曳き廻して子供を遊はせる樣なる小車を朝より挽き廻して子供を集め夕にも右の法にて送り届くるも善しとか而して之れに要する保姆は高等女學校の保姆生を付して一度子供の引取りに後るゝ者は以後一切受取らぬ等の取締法を設け試に紡績會社の近傍にて實行したしと熱心に計畫する者ありとか面白き考案と云ふへし(愛媛新報)

●尙絅女學校の參觀　去る十九日熊本敎育會に於ても女子敎育の事に就ては市內に設置しある女學校を參觀して研究の資料となすべしとの談話も出たる程なりしが昨今は縣下敎育家にして尙絅女學校を參觀するもの頗る多く又た他府縣よりも紹介を經て同學校を參觀し其敎授法特に裁縫科に就ては大に嘆稱し着々改良に向ひし處ありといふ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

◎美　談

●奇特の少女　長崎縣北松浦郡中野村寺田八百藏の孫シゲ(十四年)は目下尋常小學校四年生にして性質温和内にありては家事の手助を爲し校に登れば勤學に餘念なく村内の譽れものなるが去る頃學校よりの歸り途風呂敷包の遺しあるを拾ひあげ何ぞとてあらため見たるに金拾五圓と同村本山直次郎と記載しある切符なりければ事の意外なるに驚き歸宅もなさで直ぐに直次郎方へ持ち行き本人に渡せば直次郎の喜び云ふ許なく謝禮なりとて金八錢を取出しシゲが辭するも强て之を遣はしたり此事早くも學校村役場に聞へければ學校訓導松本氏よりは針箱一個村長よりは金八拾錢賞與として贈與したりと云ふ(鎭西日報)

●感心なる婦人　栃木縣栃木町大字倭町の裏長家に住む植木屋須藤鐵藏の二男榮吉(十四)は今を去る七年明治十九年より丸と病氣にて起臥自由ならず殆と困卜はて種々なる治療も身分相當には盡したれど七年間の長の歲月更に其驗しなく一生人並の人間となる事は出來ざるかと本人を初め親兄弟共も心配し居たるが是より前仝町大字片柳なる手塚ワキの養女某(鈴木養作)の孫が榮吉の病に異ならざる病氣にて久しく床臥し昨年上京して大學第二病院に入り治療を受けし處ろ忽にして全治したるがおワキは女ながらも義氣ある者にて右の鐵藏父子の事を聞て逆ひ我養女の全治せしを見れば必ず榮吉の病氣も治すべければ先づ東京に連行き診察を受けて見てはと云ひしも元來鐵藏は貧窮にして其資なければ診察を受たきは山々なれど迚も思ふ樣ならず然るにおワキは其往復の費用から入院料每日六十三錢ヅヽ縁もゆかりもなき他人の鐵藏父子に貸與て上京せしめ目下治療中なりと云ふが丸七年間の歲月自由ならざる病人も斯る心切なる人の助けを得て追々治癒に赴き遠からず全治にも到るとて父子の悅び一方ならずといへるが去るにてもおワキ女の心掛け深く感ずべき事にこそ(下野新聞)

◎片　々

●天野氏の賢母逝く　文學士天野爲之法學士天野喜之助兩氏の生母鏡子は夙に賢母の聞ありしが去二十三日享年五十七を一期として黄泉の人となる鏡子の良人は肥前唐津の藩士にして祿薄く職微なり二子尚は幼なる時良人病に罹つて逝く鏡子二孤を抱いて流離困阨備さに辛酸を嘗む浮世の嵐は然く烈しけれども鏡子毫も屈する色なく二子の教育爲めにも怠らず晝は人の爲めに洗ひ夜は人の爲めに縫ひ纔かに其賃錢を得て二子の學資に供し孟母三遷の恩も之には過ぎじと思はれける斯くて二子大學に入り爲之氏文學士となり喜之助氏法學士となり共に名聲を知らるゝに至りしも一に慈母鏡子教養の厚きに由らずんばあらず去月初旬鏡子肺炎を患ふ假初の事と思ひしに次第に重くなり行きて病むこと十日二子枕側に侍して衣を解かざること數夜、鏡子其起たざるを知り二子を召び其手を執ッて人生當に務むべきの道を遺言す道義諄々二子謹んで之を聽く、次に二子の妻女を召び人に母たるの道より婦人としての訓誡殘る方なく教を遺し召使の婢女にまで婦人の道を說き諭し終ッて徐ろに稱名念佛瞑目して溘焉として逝く(讀賣新聞)

●稀有の家庭(一族八十八)　宮城縣伊具郡丸森村山の内字小坊木に住める阿部喜惣治氏と云へるは舊藩の頃組頭役を勤め村長六代廿五年に及ぶよしなるが同氏は當年九十歲にて妻のマサ女は八十七歲長男の清藏氏は六十八歲其妻のシノ女も六十八才其長男忠三郎氏は四十七才妻のイサ女は四十三歲其長男の勇三郎氏は二十二歲妻のイチ女は十七歲以上四夫婦曾祖父母より曾孫玄孫に至る迄何れも健康にして且つ皆紡績の傭家内は右の外男三人女三人にて兄弟一族總て八十八人ありとはさても目出度家庭と云ふべし

●少女の誓　淺草田町一丁目三十八番地稲尾宗明翁の長女多嘉子(八年三ヶ月)は豫て岡伯王子菊洲の門に入り勉强の功空しからず將來望を屬すべき少女なりとて菊洲の賞を受けぬ扨今度の大婚式を祝の爲め高砂の畫を認め獻納致たき由を申出けるに宗明翁は蔭笑して其志は賞すべけれど斯る拙き筆にては許し難しとありければ多嘉子大に悔ひて爾來何氣なく師の菊洲に就き姥の圖を乞ひ晝夜怠らず勉强したる後去る廿三日に至り始めて自から其圖を作りしに尋常ならぬ出來なりしかば翁は一見して其志を憐み遂に師の菊洲に計り獻納の儀然る可しとて翌廿四日の昧爽多嘉子に命じて齋戒沐浴して遙に宮城に向ひ九拜せしめ然る後丈二尺巾四尺五寸の絹地へ極彩色に認めさせ青竹の軸にて假表装を爲し其筋へ獻納の儀を出願したりと云ふ(新朝野新聞)

●婦人賞金を受く　去一月十三日横濱居留地加賀町警察署より出火せし際駈付けたる元居留地百廿一番館長屋の雇女鈴木かつ(二十年)は警部巡查を助け甲斐甲斐しく働きて消防と署内の書類雜具の運搬に盡力したるより此程縣廳より賞金若干を賜ふ

●遊廓設置　門司港頭に遊廓設置の儀漸次其歩を進め警官其他の係官出張取調べに從事しつゝあり聞く近日中に許可の筈なりと發起者等日々之を俟つと「門司日報」は報ず何等の怪事ぞ須らく再考すべし

花の家胡蝶大人著

素人料理 **年中總菜の仕方**

實價金廿五錢
郵税金六錢

此『年中總菜の仕方』は、既に本紙三百五拾號に於て公評せられたる如く、文章も凡ならず、卷中の料理法極めて多くして、皆な實際に適し、最とも有益なるものと信ずれば、今回弊社に於て之を廣く取次販賣す、世の主婦たる人の必携すべき書なり、

近藤嘉三先生著

言語作法 **貴女の心得**

實價金拾四錢
郵税金四錢

本書の目次は、淑女の心得、夫の心得、化粧の要訣、談話の心得、訪問の心得、賓客接遇の心得、室內粧飾法、和歌の書方、香道の心得、茶道の心得、新式和洋挿花法、家庭衞生法、其他數件、一々圖畫を以て平易に說明せしものにして貴女の友たるを得るものなり、

巖本善治君著

女學叢書 **木村鐙子小傳**

實價金八錢
郵税金二錢

木村鐙子女史は我女子教育界の寒梅にして、女子が如何に堅信熱愛にして、若かも貞節賢德なる婦人たりし乎、請ふ此書を一讀其爲人を知り玉へ、

巖本善治君著

教育主義 **吾黨の女子教育**

實價金八錢
郵税金二錢

此書は通篇、拾五章に分ち、紙數二百〇七頁、記載する處我國女子教育に關する編者が積年幾多の意見と、其主義を代言するものにして、殊に明治女學校の教育精神、期圖を知らんと欲する士女は本書に就き閱讀あらんことを、

巖本善治君講述

女子教育 **教育學講議**

實價金八錢
郵税金貳錢

此書は君が、明治女學校高等科女生に口述せられたる講義中を要望者に頒たん爲めに廉價を以て發行す、

竹越竹代女史著

賢婦傳記 **婦人立志篇**

實價金貳拾錢
郵税金貳錢

見よ婦人の地位の如何に制せられて、其達し得る程度を如何に限られて、而して其達し得る程度の制限なきを、此書は女子の讀物として甚だ有益なるものにして、頒く之を世間に紹介す

船越鼎太郎君著

產婦小供 **攝生法**

實價金十錢
郵税金二錢

此書は姙娠婦人適當なる攝生法を、平易、簡便に示したるものにして、產婦必讀の書なり、

横山雅男君著

實跡統計 **婚姻論**

實價金拾六錢
郵税金四錢

此書は理論を以て是非を極論したる者に非ずして、著者は統計集誌に於て知名の人なり、專ら古今東西の比例統計を

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

採り以て、其國の寒暖生活文化の高低に因て、結婚に早晩あると、其實例照々乎として頗る我國男女の風習に付警矯せしものなり、

博愛慈善

看護婦美談

久野久香君著

博愛なる婦人の多涙一生を捧げて看護婦となる、而して記述の事柄二百數十頁を以て成る、

實價金廿五錢
郵稅金六　錢

撰正百首

修正小倉百首

蔦廼舍主人

我國婦女の毎春弄牌小倉式紙など弄じ之れを暗記成誦す、所謂戀歌なるもの殆ど其半に居る、其甚だしきものに至りては猥褻汙穢に過ぎたり、撰者は烏保不爲在原業平小野小町一流の人物を深く慨して此撰を世に公にせられたるものなり、此撰は伊藤仁齋好詠の和歌にして、其集二百八十有餘集にして一の戀歌なし、仁齋是を天皇に奉りたるものなりと云ふ。

實價金　四　錢
郵稅金　二　錢

女子消息

文のかきふり

小野鷺堂先生書

女子の書牘は、おのづから其かきぶり存するなると、近來玆に注意する人々稀にして、與字がちにこちく〵しき漢語をまじえ、おのこどもの書きなすものと、別ちなきやうに見ゆるそうたてき。そもく〵文は、その書きふりうるはしければ、なんとなうゆかしく覺ゆるものなるを、女子にふさはしからぬ、とげく〵しき文字の流行すなれば、いかてと思ひたちて、連綿墨つぎの法を考え『御候』字なとのおき

上下二册
實價金三拾六錢
郵稅金六　　錢

所をたゞし、熟語を除くほかに、多く假字文字を用ゐたり。云々編者誌す

高等

女子文かきふり

同

この書も亦女子が書翰のかきぶり、八拾壹題百四拾一章をつらねたる女子手跡の摸範とすべきものなり。

實價金三拾二錢
郵稅金六　　錢

再校

かな習字帖

同

此の書は、各女學校の習學科に撰定せられ、高等中學二年以上に相當する行、草躰の習字帖なり、自修の稽古本に適當のものなり。

三册
實價各金拾錢宛
郵稅各金二錢宛

藝妓内幕

藝者と手掛

炭谷小梅女史著

此書は炭谷小梅女史が、藝者と手掛の内幕を遺憾なく披露せられたるものにして、市下諸新聞は之を轉載或は細評せられたるものなり。

實價金　三　錢
郵稅金　二　錢

貞節龜鑑

貞婦お石

櫻井成明君著

貞婦お石が實に婦人の龜鑑たるべき貧困の中に舅姑の病氣を看護し、不良の夫が亡命して行方知られすなりたる后は、傭ひに田を鋤き畑を耕し、其苦節言語に堪ゆ。

實價金壹錢
郵稅金貳錢

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

東京華族女學校學監下田歌子先生序
全　囑托教授關根正直先生編輯
全　教授坂正臣先生編輯幷書

筆のゆきかひ

全二冊 一冊 正價金廿八錢 郵稅金六錢 宛

本書は多年女子敎育に從事せらるゝ兩先生の編輯を請ひたる所にして文軆は古雅に過ぎず卑俗に陷らず優美にして實用を兼ねたる女子消息文の模範たり且傍ら習字の手本とも成るべき便を計り阪先生の揮毫せられたるにて姿致瀟洒として婉麗に製本亦頗る美にして上品なり

女子高等師範學校長
華族女學校長 細川潤次郎先生序文
女子高等師範學校助敎諭
共立女子職業學校講師 寒澤振作君著

家政の栞

全一冊 洋裝大判二百頁 正價金二十錢 郵稅金六錢

本書は尤も多數なる中等社會の婦人を標準として平易に家政上の事柄を述べたるものにて其目次は總論に於て主婦の務めの貴重なる所以を論じ二章以下時間の儉約、物品の整頓、品物の時價、貯蓄、經費、手藝、物品の保存、雇人の待遇、室內の取締、家屋の構造、廢物利用等全篇十二章に分ち詳密に辨ぜし者なり良妻淑女一閲して家政上の智識を得られんとを

山田美妙齋君著

日本室內粧飾法

全一冊 正價金十五錢 郵稅金六錢

品藻の優美天質の端麗は婦人の依て地步を知る所以かの室內粧飾法の如きは大に日本婦人の注意を要すべく又其纖緻なる意匠に適せり然れども從來粧飾に關する著書あらず從て婦人の意を用ふること切ならず今美妙齋君得意の美觀的精神を以て大に室內の粧飾を述べらる純爛の錦に眩し濃艶の色に傾くの婦人諸君一度本書を繙かば清淡雅美品物の位置着色の配合花卉の姿勢等皆瞭然として明なるべく秀麗純美の趣味と健康和樂の泉源融然として溢れん

須永金三郎君著

婦女手藝法

全一冊 正價金十五錢 郵稅金六錢

女子手藝の練習法を說きたる書世間其類に乏しからず然れども其多くは皆實用に適せざる飜譯物にして其完全なるに至つては世間多く其類を見ず此書は完全なる女子手藝の練習を與へん爲め實用を旨として編纂したるものにして全編を八に分ち和洋服裁縫。毛糸編物。レース。和洋料理。養蠶。紡績。織物。染物。料理。ハンカチーフ。緣縫。押繪。造花。縫取。切箱。紋切等の有益なる諸藝より茶の湯。香。投扇輿。貝合。花骨牌。トランプ使用法等の諸遊藝に至るまで悉皆網羅し最後に至りて附錄として和洋の女禮式を載せたれば手藝の練習に志ある女子の爲には坐右に缺く可からざるの珍書なり

東京府高等女學校敎頭永江正直君著

女子教育論

全壹冊 正價金十五錢 郵稅金六錢

敎育の論囂々たり而して女子敎育の天下の大問題となりしより久し既往二十餘年間に男子か敎育上受けたる變動は頗る著大なるものにして其度毎に公私の資財を徒費し夥多の學生をして方向に迷はしめたるは世人の已に知る處なり然れとも之を女子か遭遇せし境遇の變動に比すれは尙且輕少の事たるに過ぎず壓制主義を排せんとして放逸に流れ西化主義を弊ありとしては固陋に陷り曰く儒敎主義曰く國粹主義一害を除きては一弊を生し一利に就かんとしては一益を失ふ取捨變更百十回にして而も女子敎育の方針は猶茫乎として望洋の嘆あるを免れざる敢て怪しむに足らざるなり其故何ぞや蓋し一經驗なく一責任なく竟に一個の定見なきものゝ泛言妄斷を信據するの弊害に歸せさるべからざるなり本書の如きは負然此類に同しからずして著者か東京府高等女學校の敎頭として十分の經營研究實驗の餘に成れるものなるものなれは希くは此書に依て以て女子の敎育針路を定むることを得む。

東京神田表神保町六番地

賣捌所　女學雜誌社書店

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

小林光茂君編

眞理の叢

此書は左の順序を追ふて基督教の眞理を平易明瞭に解明せる所のものにして道を求むる者には最も良好なる餘師なり

紙員百五十八頁
定價金十五錢
郵税金四錢

目次

- 神 原田助君
- 宗教の中心點 横井時雄君
- 基督教の仁愛 原野彦太郎君
- 實在的並理想的人生 小澤孫太郎君
- 希望 丹羽清太郎君
- 聖書 コーツ君
- 基督教の起原 小林光茂君
- 耶蘇基督 本多庸一君
- 聖靈 イビー君
- 安心 外山孝平君

小林光茂君

きりすと教一斑

此書は俗論囂々たる現時に最も適切なる一篇の基督教辯證論なり其目次左の如し

第一 基督教の起原
第二 基督教の特性
第三 基督教の感化
第四 基督教現今の大勢
第五 結論

紙員百三十一頁
定價金十錢
郵税金貳錢

發行所 銀座三丁目八番地 メソヂスト出版舍
賣捌所 神田表神保町六番地 女學雜誌社書店

鈴木弘恭大人講述

第五版 百人一首講義 (附錄小倉てびき)

御高評を得たる百人一首注文いよいよ多く第四版品切に成りたれば茲に第五版を印行し、且つ「小倉てびき」と云ふ、極めて便利の見出を添ゆ、之によりて、百人一首それぞれの歌の句の在り處、意味、よみ手などを直ちに見出すことを得て至極重寳なり。

正價金廿八錢
郵税六錢

透谷蟬羽著

蓬萊曲

之れ一度最暗黒に沈淪して更に一道の明火を得たりと信ずる人の沈痛悽惻なる聲を洩らしたる書なり。三年前に上梓して未だ殘本少々あり價を減じて讀者を待つ

正價八錢
郵税二錢

發賣所 東京神田表神保町 女學雜誌社書店

大月隆著

文學の調和

定價二十五錢 東京各書店發賣

(一)文學の叢淵
(一)天地(二)美(三)文學の樂園(四)人生の狀態
(二)文學の目的
(一)文學の定義(二)詩文(三)散文(四)小說
(三)文學の發達
(一)日本文學(二)支那文學(三)歐洲文學
(四)文學の調停
(一)美(二)音樂(三)義人の血涙(四)宗教

發行所 東京神田區小川町五十三番地 文學同志會出版
賣捌所 東京神田區表神保町六番地 女學雜誌社書店

文學界

二月二十八日發兌

第十四號目次

野末ものがたり
花のゆくゑ
花ごもり
翁のざれごと
活動論
深草元政
北枝發句集
其他時文

藤村　鷗水　一葉　天知　秋骨　殘花　酒竹

發行所　東京市下谷區三輪町八十九番地　文學界雜誌社

發賣所　東京神田表神保町六番地　女學雜誌社書店

共勵雜誌

第六號

二月十五日發行

定價一冊金四錢●一ヶ年前金四十二錢

目次●論說○日本に於ける共勵會の前途(原田助)○基督の糧(堀貞一)○世界各地共勵會(クラーク)●共勵談○共勵會の要機○共勵會に關する卑見數則●雜錄●內國通信●海外彙報●寄贈雜誌●廣告等

發行所　東京麴町區中六番町十番地　共勵雜誌社

●坪谷善四郎君著　閨秀錦囊　**日本女禮式**(密畫入)　全(第拾版)　正價五拾錢　郵稅拾貳錢

●坪谷善四郎君著　**家政整理法**　全(第四版)　正價拾五錢　郵稅八錢

●飯島半十郎君著　**家事經濟書**　全(第七版)　正價拾貳錢　郵稅四錢

●文學士濱田健次郎先生校閱　婦女敎育　**明治姬鏡**　濱本顯義君著　全　正價五拾錢　郵稅八錢

●陸軍々醫總監松本順君題辭　**婦女性理一代鑑**　堀誠太郎君譯(第三版)　全　正價三拾錢　郵稅拾錢

●醫學士中村正道君著　**小兒養育法**　全　正價拾錢　郵稅四錢

●須永金三郎君著　**婦女手藝法**(密圖入)　全(第三版)　正價拾五錢　郵稅六錢

●第三高等中學校敎授　醫學士高橋金一郎君著　**通俗看病法**　全　正價拾五錢　郵稅六錢

●刈城森種太郎君著　**衛生美身術**　全　正價拾錢　郵稅四錢

賣捌所　東京神田表神保町六番地　女學雜誌社書店

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

皇后陛下
明宮殿下御覽濟の書

再版

巖本善治妻 譯

小公子

(リットルロード、フォントルロイ)

子供のよみ本

(早稻田文學第四號)

坪内雄藏君批評

原書の精神は無邪氣なる小公子を主人に利己にのみ傾ける老貴族を副主公にして「無邪氣」の周圍に及ぼせる感化並に周圍の「無邪氣」に及ぼせる影響を寫さんと力めたるもの、如し小說としての價値如何は譯者に就きて論ずべきにあらず只一言すべきは斯く純潔無垢の良小說を紹介したるは女學雜誌社平素の主義よりいふも誠に能く撰みたりと云べし譯文は誠に流暢平易なれど其中に譯者が深切なる苦心の跡見えたり就中長幼貴賤の言語を別たんとて又は文情の調和をはからんとて「キツト」「大した」の「鼻が高い」「目がない」等の俗語を用ひたるが如きは殊に全力を灑ぎたりと見えていとめでたし行文の中に餘り多く「御」の字を用ひたるが少しく耳だてど咎むべき程にはあらず「人にいひ〳〵しました」「しつかり歩いてゐました」などゝ言葉を重ねたるはおのづから優しき女敎師が幼童に敎ふる時の風に似たり何れも譯者の婦人たるを證してなか〳〵にゆかし」兎に角當今外國美文學輸入の必要ある際に斯く原文の精神と外形とを寫し出さんと力めし翻譯の見はれしは文學のため賀すべき事なり。

正價金二拾八錢　郵稅金八錢

發行所　東京神田表神保町　女學雜誌社書店

女學雜誌定價表

册數	定價前金	市外定價郵稅共
一册	金六錢	金六錢五厘
十册	金五十八錢	金六十三錢
廿六册(半ヶ年分)	金一圓四十三錢	金一圓五十六錢
五十二册(一ヶ年分)	金二圓六十錢	金二圓八十六錢

一本誌購讀者は代價郵稅共凡て前金御拂込之事前金御拂込無之御注文有之候共一切送附不仕候

一本誌代價郵稅共郵便小爲替にて拂渡局を必らす

一ッ橋郵便爲替取扱所へ宛御振込の事。

請取人は神田表神保町六番地女學雜誌社と御記入の事。郵便切手代用は一割增(五厘切手に限る)にて申受け候。

一本誌御注文の節は住所姓名を明瞭に記載し號數は何號より何册分と詳細に御書添への事。

發賣所　東京市神田區表神保町六番地　女學雜誌社書店

明治廿六年四月廿五日內務省許可
明治廿七年三月九日印刷
明治廿七年三月十日發行

發行兼編輯者　東京市麴町區下六番町六番地　巖本善治
印刷者　仝　牛込區市谷加賀町一丁目廿三番地　根岸高光
發行所　東京北豊島郡王子村下十條八百五十一番地　女學雜誌社
印刷所　仝　牛込區市谷加賀町一丁目十二番地　株式會社秀英舍第一工場(電話十九番)

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY